

SF映画のような、近い未来のお話

文 長也寸志

text by Yasushi Cho

“再生”を促す“幹細胞” 7

先月このコーナーで「とある大学の研究機関と連携し、幹細胞再生治療の臨床データを集計・分析しています」とお伝えしたところ、読者の皆さんから予想外に多くの反響をいただきました。辛い病気を克服し健康を取り戻すことは、やはり多くの方にとって悲願なのです。改めて実感し、痺を締め直す気持ちです。

さて、その進捗なのですが、実は九州大学のラボと協力して研究を進めています。そして何と、フルオートメーションの幹細胞培養器の開発を行っているところです。私たちは画期的な幹細胞再生治療を可能な限り多くの方に受けていただきたいと考えています。しかし、まだまだ理想には程遠く、限られた方のみしか治療を行うことができていません。その理由は、治療費が非常に高額であるという課題があるためです。

幹細胞再生治療に使用する細胞の培

養は、厳格な基準を満たした施設で、これまた厳格なプログラムに則って行われます。この培養が難しく、専門の培養士がかかりきりで行っても月に20名分が限度。とても希少性が高いものなのです。幹細胞再生医療の裾野を広げるためには、可能な限り価格を抑えたい。わかりやすく例えるならば、国産ハイブリッド車に乗れるくらいのご家庭にまで、手が届くようになればと考えています。家族のために仕事を頑張ってきたお父さんが体を壊してしまったり、子どもとお母さんが治療をプレゼントしてあげられるような料金に……。自動培養器があれば、一定の品質のもとで信頼性の高い培養が可能になりますから、こんな例え話も現実に行うことができるのです。

最先端のロボット技術と、培養士たちの独自の経験値が融合したAIは、当然すさまじく高度なプログラムを要します。優秀な培養士が、潜在意識下で行っている行動まで取り込む自動培

養器。まるでSF映画のようなお話だと思われませんか？しかし、その実現は決して夢物語ではなく、近い将来の話であるとお伝えしておきましょう。医療にもIT技術が不可欠、私たちはそんな時代を生きているのですね！

Profile

医療法人社団 友志会 理事長
1987年3月 福岡歯科大学 卒業
1987年4月 福岡歯科大学病院保存科 入局
1989年6月 長齒科医院 開設
1994年8月 新地八口一齒科診療所 開設
1996年 医療法人社団友志会 設立
2007年8月 翼八口一齒科・内科診療所 開設

